■エルザ即（ルーシィもあるよ！

闇ギルドやら何やら一悶着が過ぎ、やっと平和になったフィオーレ王国。
しかし平和は長く続かなかった！
魔導士たちの魔力や邪念の影響か、淫魔と呼ばれる特殊なモンスターが大量発生！
半裸もしくは全裸の男といった風貌の淫魔は性的な誘惑・攻撃を得意とする異形。
街中で次々と女性を襲い、
『妖精の尻尾』〈フェアリーテイル〉の美女魔導士・エバーグリーンも標的にされていた！

「こ、この私が♥♥　淫魔なんかに……あ♥♥　中はダメっ♥♥♥
イグッ♥♥♥　んほおぉおぉおぉおぉおぉっっ♥♥♥」
「そんな……エバーグリーンがヤラれるなんて！　何なのよこいつら！」

妖艶な姿・性格に相応しく経験豊富なはずのエバーグリーンがあっさり堕とされ、
その場に出くわしたルーシィは酷く困惑する。
通常攻撃も効かず、いよいよルーシィも襲われるかと思った時、そこにエルザが駆けつけた。
腰まで届く緋色の長髪、切れ長の双眸に彩られた、「妖精の女王」の異名を持つ美女魔導士。
特殊かつ女性なら生理的に嫌悪しそうな異形を前にしても、
彼女は余裕の笑みを浮かべていた。

「これは淫魔か。珍しいな……しかもこれほど大量に現れるとは」
「ねえ、これどうすればいいの？　普通の魔法が効かないの！」
「ああ、淫魔を討伐するには淫闘……セックス勝負で勝つしかない」
「ええっ？！　セ……？！　勝つって……？」

エルザの威厳たっぷりな顔から出たとは思えない言葉に
ルーシィは赤くなりつつ更に混乱を極める。
説明するため、エルザは落ち着いたまま淡々と言葉を続ける。

「要はバトルファック……イカせ合いだ。
淫魔はこちらをイカせようとする。そうすることで奴らの魔力が浸透し、
身も心も虜になってしまうのだ。
淫魔の精力が尽きる前にイッてしまえば、自力で回復することはほぼ不可能となってしまう。

しかし、女が一度もイカずに淫魔を射精させれば、逆に屈服させることが出来るのだ。
むしろこの方法しかないが……要領さえ掴めば、あとは簡単だ。
奴らが全滅するまで、ひたすら搾り取ればいい。
「搾り取るって……！」
「安心しろ。お前達にこんな汚れ役をさせるわけにはいかん。
ここは私に任せて先に行け！」
「エルザ……！　でも……あっ！」

まだ情報を整理しきれないルーシィをエルザが突き飛ばす。
ルーシィのことだ。こうでもしなければ、例え女として辱めを受けようと、
エルザだけ置いては行かないだろう。
だが初心な彼女では足手まといになりかねない。
何より……

「ふふ……♥」

本性を……思い切り淫れ、雄を貪る姿を見られるのは気まずい。
ルーシィが無事に逃走できたのを確認すると、
エルザは襲いかかる淫魔にも負けない嗜虐的な笑みを浮かべた。
厳格な彼女だが、実は性欲は人一倍強く、毎日のようにドスケベ本を読み漁り、
豊満で美しい肉体を持て余す日々の中、寧ろ淫魔との性交を楽しみにしていたのだ。
淫魔の一体を押し倒すと、早速手を使って彼の一物……色魔に相応しい大きな勃起を
力強く握った。

「最近、御無沙汰でな……♥　悪いが淫具扱いさせてもらう♥　覚悟しておけよ♥♥」

――……
――――……

「はっ♥♥　はへっ♥♥　あ♥♥　あ゛っが♥♥　ん゛お゛お゛お゛っ♥♥♥」
ぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんぱんっ♥♥
ずぼずぼずぼずぼずぼずぼずぼずぼぉぉぉっ♥♥
ドビュ♥♥　ビュッ♥♥　ビュ――――ッ♥♥
「ん お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ お゛ ♥♥♥」

……数分後。そこには無様に肉屈服させられたエルザの姿があった。

（こんなバカな♥♥　私が♥♥　下級淫魔如きに♥♥　しかも♥♥　たった一体にぃぃぃっ♥♥）

性戯には自信があったエルザ。通常戦闘でモンスターを相手取る時と同じように、
淫魔など何十体と蹴散らせる。
……はずだったのだが、今回の淫魔は過去のものとはわけが違った。
性的興奮を強いる淫気と呼ばれる魔力、性戯の繊細さ、精力。
それら一つ一つが恐ろしく凶悪になっており、
エルザのドスケベ貪欲ボディも今ではただの敏感淫乱牝肉でしかない。
強い精神力により、絶頂を経ても完全には堕とされてはいないものの……
なぜエバーグリーンがあっさり堕とされたのか、エルザは身をもって思い知っていた。

「こ……これほど進化しているとは♥♥　少々……侮っていたな……だがっ♥♥」
ぱぁんっ♥　ぱぁんっ♥　ぱぁんっ♥　ぱぁんっ♥♥
「私が♥♥　この程度でっ♥♥　まっ♥♥　負けっ♥♥」
ごづぅんっ♥♥
「んあっ♥♥」
（こ……♥♥♥　この私が♥♥♥　負ける……など……♥♥♥　あってはならないっ♥♥♥）
「んっ♥♥♥　んむっ♥♥♥　んむんんんんんんっ♥♥♥」

ここでエルザが負けてしまえば、他に対処できるものは限られる。
自分だけは負けてはならない……底力、貪欲さを発揮したエルザは、
絶頂の余り眼を上に剥きながらも、強引に一体目を搾り切る。

実践を経て、女性豪としてまた一段と強くなったエルザ。
だが淫魔はまだまだ何十と残っている。
これは流石に、いつか堕とされるのではないか……被虐の精神も刺激されながら、
エルザは彼らと肌、肉を重ね続ける……

◆
「はぁ……エルザ……大丈夫かな……あっ！」

突き飛ばされる形で逃避してしまったルーシィ。
エルザだけに任せることに罪悪感を覚えるが、自分がいても足手まといになりかねない。
ここは経験豊富な者たちに任せ、大人しく逃げ隠れるのが賢明……なのだが。

やはり彼女の正義感も強く、襲われている女性たちを見つけると義憤のままに庇ってしまう。

「ここは逃げて！　早く！　……！」

毒牙にかかりそうになっていた一般市民を逃がしたはいいが、
次はルーシィが標的にされる。
複数に取り囲まれ、もはや逃走は不可能な状況になり、ルーシィは覚悟を決める。

「……き、来なさいよ！　バトルファックだかなんだか知らないけど……
アンタたちなんかに負けないんだから！」
（アタシが何とかしないと……！　また誰かが犠牲になっちゃうのはダメ。それに……）

淫魔の股間部にそそり立つものを見て、ルーシィは生唾を飲む。

（エッチなこと……興味ないわけじゃ……ない……♥）

緊張、恐怖というよりは期待が大きかった。相当に大きかった！
ただでさえほぼ経験のない行為なのに、加えて相手は異種、淫魔。
恐怖や不安がないではない。
だが……それ以上に期待が、性交願望が高まっている。
ルーシィも妙齢――出産適齢期の女性。エルザほどではないとはいえ、性欲がないではない。
強い精力を持つ雄と聞けば、どうしても頭より先に下腹部が働いてしまう。
更に淫魔が発する淫気。催淫効果で性的興奮が強制させられている今、
正義感を免罪符にしてしまうほどルーシィは交わいを優先する思考になっている。

「来なさい色情魔♥　フェアリーテイルの魔導士が相手してあげ……あっ♥♥」

緊張、期待、様々な昂揚で心臓が早鐘を打つ。
啖呵を切りながら、震える手で衣服を脱ごうとするが……
着衣プレイがお望みなのか、待ち切れないのか、
脱ぐ前に淫魔に組み伏せられる。それでいて加減は心得ているのか、
拘束する力は乱暴すぎず。
押しに弱いことを自覚している女魔導士は、適度に強引な迫り方をされ、
ただそれだけで思わず牝の喘ぎを漏らした……

（こいつら♥　なんでアタシの好み知ってんの♥　でも……負けない♥

負けない……からぁ……♥♥)

――……
――――……

ぱん♥　ぱん♥　ぱん♥　ぱん♥　ぱん♥
「ああっ♥♥　すごっ♥♥　もっと♥♥　もっとぉぉ♥♥」
ドプッ♥♥　ビュルッ♥♥　ビュビュウウウウウッ♥♥
「あはぁぁんっ♥♥♥　またイク♥♥♥　イッちゃうぅぅぅっ♥♥♥」

……いくら使命感に燃えていようと、陵辱されることに興奮する牝では敵うはずがない。
数分も経てば、魔物を倒すはずの魔導士はすっかり快楽の虜になっており、
まるで嫌がる素振りも見せずに自ら腰を振り、両手でもそれぞれ肉茎を握って
輪姦の悦びを甘受していた。

「淫魔のセックスってスゴい♥♥　こんなに気持ち良いなんて♥♥
オナニーとは比較になんない♥♥
我慢してるのに♥♥　全然堪えらんないっ♥♥　乱暴にされるの好きぃぃ♥♥
もっと♥♥　もっとぉぉっ♥♥」
ドップ♥♥　ドク♥♥　ドブルルゥッ♥♥
「あっ♥♥♥　またっ♥♥♥　中にっ♥♥♥　スゴッ♥♥♥　すごいいっ♥♥♥
淫魔中出しっ♥♥♥　イクぅぅぅぅぅぅっ♥♥♥」

魔物の、しかしルーシィ好みの雄の白濁を受け、目を剥いて仰け反る。
堪らない膣内射精快感に溺れるが……
彼女を、二人の魔導士が助け出した。

「ルーシィ！」
「この強姦魔、とっとと消えなさい！」

ルーシィを抱え上げたのはミラジェーン、淫魔を蹴り飛ばしたのはリサーナ。
姉妹の魔導士もこの騒ぎを制圧するため活動しており、
偶然見かけたルーシィを助けることができたのだ。

「大丈夫ルーシィ？　もう、無茶するんだから」

「ふぇ？　ミラさん……リサーナも！　あ、ありがと……でも、どうやって淫魔を？」

淫気から脱し、正気に戻ったルーシィ。
羞恥で身体を隠しつつ、どうやって淫魔を倒したのか尋ねる。
―― 二人によれば、別に淫魔はセックス勝負……バトルファックでなくても
浄化は可能だそうだ。
現在では対淫魔用の魔道具が売られている。
それを使えば通常の攻撃でもダメージを与えられるようになるのだ。

「じゃあエルザは？」
「この魔道具ができたのは最近だし、忙しかった時期だから……たまたま気付かなかったのね」

不運にも、この魔道具のこと、新しい対処法を知らなかったのか。
それとも……

「とにかく、普通に勝てるのよね？！　なら、アタシも……っ！」
「無理しないで。今はルーシィは回復に専念して。ここは私たちが片付けるから！」
「……うん、わかった！　ありがとうミラさん、リサーナ！」

対処できるようになったとはいえ、ルーシィは要回復状態。
ここは二人に任せ、ルーシィは再び一時退避することに。

「さぁ……いくわよリサーナ！」
「今回はミラ姉よりも活躍しちゃうんだから！」

二人は対淫魔用の魔道具を使うため、いつものように『接収』<テイクオーバー>は使えない。
ほぼ通常状態なら姉以上の戦力となれるのではと、
リサーナは気合満点に淫魔を攻撃していく。
だが、張り切りすぎたのか、やはり敵の数が多すぎたのか、
いつもの戦い方ができない二人は徐々に劣勢となっていく。

「こいつら、また増えてる？　この……あっ！」
「ミラ姉！　もう、キリがない……ちょっと、離してっ！」

身体能力だけなら、そう極端に高くないミラとリサーナ。
一体ずつなら圧倒できても、際限なく現れる敵を制しきれず、ついに捕まってしまう。

「きゃぁっ♥　ち、近付かないでっ！」
「やだ、この……いやぁっ♥　この……変態っ！」

ミラはワンピース姿で、露出度は高くないが淫魔を相手取るのに
向いているとは言えない装備。
リサーナはホットパンツなので太股が露出しており、やはり完全な対淫魔用の装備ではない。
そんな姉妹の衣服……ミラのスカートが、リサーナの生足が淫魔の情欲を煽り、
淫気を一段と濃くさせていた。
剥き出しの肩や脚から淫気が浸透し、ミラもスカートでは淫気の侵入を防ぎ切れない。
身体が無自覚に発情して牝としてのスイッチが入っており、
触れられて思わず可愛い声が出てしまう。
とはいえ、そこはフェアリーテイルの魔導士。
すぐに打ち返し、昂りを感じつつも淫魔を一体ずつ倒していく。
それでもまだまだ淫魔は減らず、むしろ二人の美貌が淫魔をより強く、より多くさせていく。
いくら闘志があっても、このまま戦い続ければ。
薄っすらと予感する、姉妹揃っての敗北輪姦……
決してあってはならないはずの事態に本能の片隅で期待を抱いてしまうが、
それを振り払うように、姉妹は凛とした覇気と共に決意を見せた。

「いくら増えたところで……街のみんなには手出しさせないわよ……」
「私たち、フェアリーテイルの魔導士は……」
「淫魔なんかに！」
「負けたりしない！」

――……
――――……